



「人づくり=島づくり」

⑥ 夏なので、あえて暑苦しい話を

利島に来て早くも2年近くになりますが、教育長に着任した日は運動会の日でした。現在の高校1年生（当時、中学2年生だった皆さん）が中心となって下級生を引っ張り、児童生徒全員が一生懸命に頑張る姿に感動しました。一生懸命さは、利島の子たちが誇るべき「カッコよさ」だと思います。

～尊敬する先輩の話～

一方、私自身のことを振り返ってみると、中学生の頃までは「努力せずに、頑張らずに、スマートにできるのがカッコいい」と思っていました。転機は高校で出会った野球部の先輩でした。その先輩は文武両道の努力家で、「カッコいい！あの人みたいになりたい！」と思って観察していると、小中学生の頃から続けている練習や学習の積み重ねが結果に結びついているのだと分かりました。その先輩を見て「努力して、頑張って、泥臭くやって結果を出す方がカッコいいのではないか」と思うようになった私は高校3年間、野球や勉強を精一杯頑張ってみました。連日、朝練や居残り練習を繰り返し、電車でも寸暇を惜しんで勉強していたのを今でもよく思い出します。



その結果うまくいけばドラマのようで良かったのですが現実には甘くなく、高校最後の野球の大会では1試合で2つのエラーをし、第一志望の大学にも落ちてしまいました。ただ不思議と卒業の日には、これまで経験したことのない満足感が得られました。

～尊敬する上司の話～

利島に来る前の職場（文部科学省）の話ですが、私の最も尊敬する上司の一人は、ご自身のアイデアを次々に政策として形にしていき、今の日本の教育に大きなインパクトを与えています。その人が人事異動になった際に、「仕事に絶対に欠かせないのは何だと思う？」という話をしてくださいました。教育政策は、数十年後の未来・社会を見据えて取り組む必要がありますので、私は「未来への先見性」が大事なのかなと思いました。しかし、その人は「仕事に絶対に欠かせないのは、絶対につくり上げる、やり遂げるという意志だ」と。常に冷静で論理的な人が一番大事にしているのは「意志」。とても印象に残りました。

今の時代、「頑張りすぎはダメ」とか「できる範囲でやろう」とか、先回りして、やらない理由やできなかった時の言い訳を用意してしまうケースが多いのかもしれませんが。だからこそ、ここぞという時には「とにかく頑張ってみる」、やるからには「絶対にやり遂げる」ことも必要だと感じます。

そんな想いも込めて、新しい教育大綱である「“人づくりが島づくり”大綱」には「自燃性」「当事者」「自立」「一体感」という暑苦しめな言葉がたくさんあります。どうかご理解のほど、よろしくお願い致します。

とは言っても暑い季節ですので、運動はどうか頑張りすぎずに、できる範囲で、しっかり水分補給し、熱中症にはくれぐれもお気をつけください。長文をお読みいただいた方、本当にありがとうございます！



コラムの感想・意見はこちらから